

2013
新春祈願

満願成就

天童
温泉神社

開運
叶

五〇〇円

天童温泉神社

かなう

「叶」絵馬

- ◆健康祈願
- ◆合格祈願
- ◆商売繁盛
- ◆縁結祈願
- ◆交通安全
- ◆家内安全



案内図



温泉神社の由来



昭和十三年（一九三八）町内の氏子有志によって、「稲千稲荷神社」の講中に募り、当時蛇行していた倉津川に橋を架け、この地に小さな稲荷神社を祀ったことから始まる。

戦後間もない昭和二十一年（一九四六）に、天童温泉開湯三十五周年を記念し、湯殿山の分神を受け、十月七日夜、当時の津山村長（温泉組合長）山口栄吉の寄贈による万年堂に祀った。
現在の温泉神社は、開湯六十周年を迎えた昭和四十五年（一九七〇）に建立。それまで別々に祀っていた「湯殿山大神」と「正一位稲荷大明神」を新社殿に遷座し、遷座・合祀祭を挙行した。温泉協同組合並びに温泉部落会が中心となり、「温泉の町の守護神」として永久に祀ることとした。（宮司・鈴木善一の祝詞から）
その十年後に、温泉神社境内に「稲荷神社」を新たに建立し、祭神を分祀している。

湯殿山大神

「大己貴命」（おほなむちのみこと）
大國主命、即ち大黒様のこと。出雲大社の祭神で、縁結び、商売繁盛、医薬の神として古来あがめられてきた。温泉神社では、この神を主祭神として祀っている。
「少彦名命」（すくなひこなのみこと）
智慧に優れた学問の神、科学や酒つくりの神。
「大山祇命」（おほやまつみのみこと）
万物を育む山の神。稲作をはじめとする農業の神、産業の神として信仰されてきた。

正一位稲荷大明神

「宇賀霊命」（うかのみたまのみこと）
稲荷神社の主祭神。穀物を中心に農業や商売の守護神。
「猿田彦命」（さるたひこのみこと）
天孫降臨の際、道案内をしたことから、交通安全の神としても有名。天狗として親しまれている。

平成二十四年五月吉日

天童温泉町内会
天童温泉協同組合